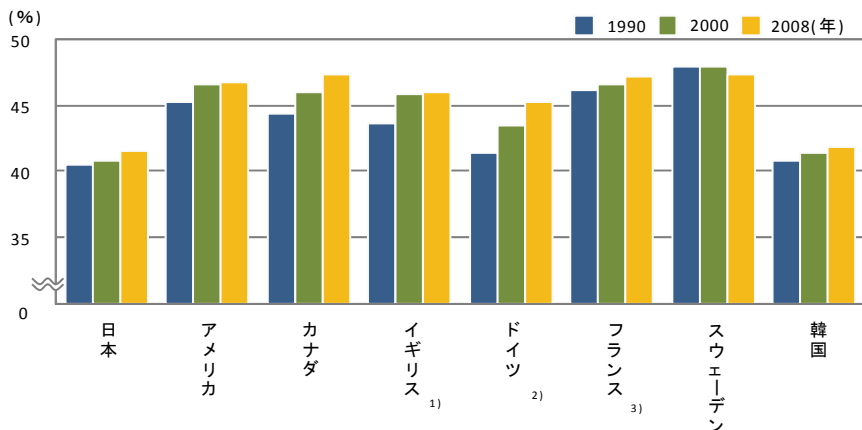


3-3 就業者に占める女性の割合



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第3-4表 性別・職業別就業者数」(p.103)を参照。

(注) 1) イギリスの1990年は1991年の値、2000年は2001年の値。

2) ドイツの1990年は1993年の値。

3) フランスの1990年は2003年の値、2000年は2005年の値。

就業者に占める女性の割合は、全体としてみれば1990年から2008年にかけて上昇傾向にある。ただし、スウェーデンは1990年時点で既に女性就業者の割合が高水準で、以降横ばいの推移となっており、またアメリカは1990年から2000年にかけて増加した後、ほぼ同水準での推移となっている。

上のグラフをみると、日本は主な先進国のなかで女性の割合が最も低いのがわかる。「2-5 女性年齢階級別労働力率(p.53)」のように、日本においては、出産・育児等のために特定の階層で女性の労働力率が低下するというM字カーブが現在でもみられることが、ひとつの要因として挙げられる。

(参考) 就業者に占める女性の割合(%)

	1990	2000	2008 (年)
日本	40.6	40.8	41.6
アメリカ	45.2	46.5	46.7
カナダ	44.4	46.0	47.3
イギリス ¹⁾	43.6	45.9	46.0
ドイツ ²⁾	41.5	43.5	45.3
フランス ³⁾	46.1	46.6	47.2
スウェーデン	48.0	47.9	47.3
韓国	40.8	41.4	41.9

表中の注番号はグラフ(注)に準ずる。